

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970200091		
法人名	社会福祉法人 ひかりの里		
事業所名	グループホーム めだかの学校		
所在地	山梨市三ヶ所937-1		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桃やぶどうの果樹地帯にあるH15に開所した木造2階建てのユニットIと平成23に開所の平屋のユニットIIのホームである。朝食後Iの建物に移動し朝礼を行ない1日の予定を相談します。家庭的な雰囲気の中で残存能力を高める為に生活リハビリを中心に支援している。家族から協力をいただき一人ひとりの生活歴を知ることでその人らしい暮らしが出来てそれぞれが役割を担い楽しく過ごしている。食事の支度は季節の野菜をめだかの畑で収穫し皆で相談しながら食べたい料理を決めて作っている。天気の良い日はお弁当を作り外気を浴びながらのテラスでの食事はIとIIの仲間の交流の場ともなっている。掃除は毎日の日課でモップや雑巾・掃除機を使用し食材の買い物の購入から調理まで、利用者職員が協力して作り、献立もその都度希望に沿うようにしている。雑巾縫い、習字、絵手紙、巻紙アート等の制作をとおり、地域の祭りに参加したり、ボランティアや家族との交流を続けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は果樹園や住宅に囲まれた静かな環境に立地し、木造2階建てのユニットIは一般住宅をグループホームとして改築した為、家庭的な雰囲気と心地良さを感じる。平成23年に増設されたユニットIIは隣接しているため、自由にユニット間を移動できる。利用者は毎日、全員で朝礼や食事を行っている。朝礼は利用者主体で進行するので、各々の得意な分野で意思表示や発言する機会となり、利用者同士の交流の場となっている。食事やおやつは食材の購入から調理まで、利用者職員が協力して作り、献立もその都度希望に沿うようにしている。雑巾縫い、習字、絵手紙、巻紙アート等の制作をとおり、地域の祭りに参加したり、ボランティアや家族との交流を続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づき評価						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で変わりなく生活し暮らし続けていく為に「家庭的な雰囲気の中で生活が出来る事」を独自の理念とし地域と支えあい知識や技術を学び日々利用者に接するよう取り組んでいて職員と共に支えあい技術を学び日々利用者に接し取り組んでいる。	地域の中で変わりなく生活し暮らし続けていく為に「家庭的な雰囲気の中で生活が出来る事」を独自の理念とし地域と支えあい知識や技術を学び日々利用者に接するよう取り組んでいて職員と共に支えあい技術を学び日々利用者に接し取り組んでいる。	「家庭的な雰囲気の中で生活が出来る事」を理念として要所に掲示すると共に、「自分の親であつたら」という意識づけをしている。新任職員には自分自身も楽しめた一日であつたか振り返ることに重点を置いて育成している。利用者や職員が対等に接し、言葉使いもその方に合わせて良い関係が築けるように心掛け、月1回の職員会議でケアについて話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とは下新町区活動に賛助し区員として積極的なかわりを持つ地域と交流あり近所の後屋敷保育園とも交流がある。散歩時はゴミ拾い等で地域の中の役割を担っている。地域ボランティアからの絵手紙・習字教室の指導がある。御屋敷地区ふる里祭りへ作品を出展した	地域とは下新町区活動に賛助し区員として積極的なかわりを持つ地域と交流あり近所の後屋敷保育園とも交流がある。散歩時はゴミ拾い等で地域の中の役割を担っている。地域ボランティアからの絵手紙・習字教室の指導がある。御屋敷地区ふる里祭りへ作品を出展した	地域の自治会に加入し、神社の祭典や花見に参加している。また、地区の文化祭には一年を通して作成した巻紙アートを出展している。地域の方がボランティアで指導している絵手紙や習字教室の他、保育園児との交流もしている。利用者が散歩する時にはゴミ拾いをする等、地域の一員として役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「ほっとスペース事業」を開設している事で月1回地域の家族はもちろん認知症である本人が相談の場所としている。峡東地区認知症の人と家族の会とも交流あり症状による対応方法や予防に向けての支援をしている。	「ほっとスペース事業」を開設している事で月1回地域の家族はもちろん認知症である本人が相談の場所としている。峡東地区認知症の人と家族の会とも交流あり症状による対応方法や予防に向けての支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	後屋敷地区B地区の区長・民生委員・家族を会議構成員とし2ヶ月に1度交代で参加してもらっている。認知症についての基本的な知識や理解は事業報告の内容から伝えられている。地域の行事には積極的言葉かけを頂き参加させて貰えて認知症になっても心豊かに生活できている様子が伝わっている。	後屋敷地区B地区の区長・民生委員・家族を会議構成員とし2ヶ月に1度交代で参加してもらっている。認知症についての基本的な知識や理解は事業報告の内容から伝えられている	2か月に1回会議を開催し、夏季と冬季では開催時間を調整し、出席しやすいよう配慮している。地域行事の情報を得たり、認知症の知識・理解について伝えられている。構成員の地区役員が2年で交代するが、任期が終わってからそのままの方が訪ねてくれるようになった。グループホームからは、災害時の応援を地域の消防団にお願いしている。また、会議は利用者中心で進出し、認知症の方への理解をアピールしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	抱えている問題は日頃から積極的に連絡を取っている。2年に1度交代となる区長が運営推進会議の為、市町村関係者に協力をいただいている。包括支援センターとは協力関係を築きサービスの取り組みから実態を共有して「認知症サポーター研修」の体験学習場所としている。	「ほっとスペース事業」を開設したことで日頃から積極的に連絡を取っている。2年に1度交代となる区長が運営推進会議の為、市町村関係者に協力をいただいている。包括支援センターとは協力関係を築きサービスの取り組みから実態を共有して「認知症サポーター研修」の体験学習場所としている。	市の事業として「ほっとスペース事業」の委託を受けた、「認知症サポーター事業」の研修場所となっている。市の担当者とは困り事があればその都度相談したり、逆に在宅の方の相談や認知症の理解について相談を受けることもあり、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等で具体的な行為は理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいるが身体的・精神的な問題は家族や主治医と相談している。玄関や勝手口の施錠は、早朝・夕方以外は施錠しないように取り組んでいる。日中はIとIIを行ったり来たりしている	内部研修等で具体的な行為は理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいるが身体的・精神的な問題は家族や主治医と相談している。玄関や勝手口の施錠は、早朝・夕方以外は施錠しないように取り組んでいる。日中はIとIIを行ったり来たりしている	職員会議時に内部研修として身体拘束をしないケアについて話し合ったり、年1回法人内研修に参加している。玄関等の施錠は日中はしないで、ユニットIとIIを行き来できるようにしている。スピーチロックは、気をつけないと反対に利用者から不満が出るため、ほとんどみられない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や職員会議等で学ぶ機会を多く持ちスピーチロック等では防止の徹底を図り虐待が見逃されないように職員同士が声を掛け合っている。実際に高齢者虐待で保護され入所につながった利用者があるので学ぶ機会がある。	内部研修や職員会議等で学ぶ機会を多く持ちスピーチロック等では防止の徹底を図り虐待が見逃されないように職員同士が声を掛け合っている。実際に高齢者虐待で保護され入所につながった利用者があるので学ぶ機会がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修に参加し学ぶ機会を得ている事から金銭の管理能力が低下し対応が必要と思われる人が活用できるように関係者と話し合いを重ね活用できるように支援し成年後見制度を利用している。	研修に参加し学ぶ機会を得ている事から金銭の管理能力が低下し対応が必要と思われる人が活用できるように関係者と話し合いを重ね活用できるように支援し成年後見制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと丁寧に説明し家族からの不安や疑問点を聞き納得を得て改定の際は書類に確認後サインをもらっている。また解約や状態の変化から退去となる場合も丁寧に説明し理解を得ている。	ゆっくりと丁寧に説明し家族からの不安や疑問点を聞き納得を得て改定の際は書類に確認後サインをもらっている。また解約や状態の変化から退去となる場合も丁寧に説明し理解を得ている。		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームめだかの学校	[セル内の改行は、(Alt+Enter) + (Enter) です。]	
自己	外部	項目	自己評価		外部評価
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況
					次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ホームだより「めだか便り」を発行し近況を報告して家族参加の行事の時(特に宿泊)にも率直な意見をいただいている。運営に反映させる為に運営推進会議に家族代表として参加してもらい外部者へ表せる機会を設けている。家族が訪問時に悩みや意見を聞き管理者へ伝え反映させている	毎月ホームだより「めだか便り」を発行し近況を報告して家族参加の行事の時(特に宿泊)にも率直な意見をいただいている。運営に反映させる為に運営推進会議に家族代表として参加してもらい外部者へ表せる機会を設けている。家族が訪問時に悩みや意見を聞き管理者へ伝え反映させている	運営推進会議で家族代表の意見を聞いているが、面会等日常的に家族と話す機会も多く、悩みや意見を管理者に伝え支援に反映している。また、毎月「めだか便り」を発行し、近況報告をしている。年間行事の要望に応じて、一泊の家族旅行・長寿祝いのお会・クリスマス会等を開催して家族の参加を募り、プレゼント交換等もしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との意見交換は職員会議に意見や提案を聞く代表者の訪問時にも話し合い話し合う機会を設けている。特に隣の建物を建築の際は、設計から意見を取り上げてもらい希望を取り入れてもらった。外気浴を受けながらの食事場を提案し理解してもらえた	職員との意見交換は職員会議に意見や提案を聞く代表者の訪問時にも話し合い話し合う機会を設けている。特に隣の建物を建築の際は、設計から意見を取り上げてもらい希望を取り入れてもらった。外気浴を受けながらの食事場を提案し理解してもらえた	職員会議で職員の意見や提案を聞いている。行事の企画等は職員意見を取り上げている。管理者も一緒にケアしているので、気軽に話ができ職員間の連携がとれている。法人代表者の訪問時に話し合いの機会を設け、手すりや浴槽の滑り止めを設置したり、ユニット増築の際は設計の段階から提案を取り入れてもらった。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	機会を設け代表者は職員の努力や実績を把握して職員の評価を行ない環境・条件を聞き向上心をもって働けるよう協力してもらっている。子育て中の職員に対して勤務時間短縮や工夫の条件を理解してもらい整備している。	機会を設け代表者は職員の努力や実績を把握して職員の評価を行ない環境・条件を聞き向上心をもって働けるよう協力してもらっている。子育て中の職員に対して勤務時間短縮や工夫の条件を理解してもらい整備している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	山梨県グループホーム協会の研修や法人内外の研修を受ける機会は確保出来ていて職員はそれぞれ努力している。	山梨県グループホーム協会の研修や法人内外の研修を受ける機会は確保出来ていて職員はそれぞれ努力している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所を見学・交流する機会があり相互訪問の活動や勉強会を通して質の向上に向けて取り組んでいる。市内のGHとの交流があり(湯苗田G、H)の事業所を見学交流する機会があり勉強会や相互訪問等の活動を通じて質の向上に向けて取り組んでいる。	他の事業所を見学・交流する機会があり相互訪問の活動や勉強会を通して質の向上に向けて取り組んでいる。市内のGHとの交流があり(湯苗田G、H)の事業所を見学交流する機会があり勉強会や相互訪問等の活動を通じて質の向上に向けて取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の置かれている状況を把握する為に何度か本人と訪問してもらい関係を深める所から困っている事や不安な思いに耳を傾けながら互いに支えあえる人間関係を作る努力をしている。その際入浴や昼食に誘い本人の力を確認している。	本人の置かれている状況を把握する為に何度か本人と訪問してもらい関係を深める所から困っている事や不安な思いに耳を傾けながら互いに支えあえる人間関係を作る努力をしている。その際入浴や昼食に誘い本人の力を確認している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状況を把握する為に何度か訪問してもらい困っている事、不安な事の要望に耳を傾けながら安心して生活出来るよう関係づくりに努力している。本人の情報(生活史・習慣・好きな物)や家族の情報を聞き取り信頼関係づくりに努めている。	本人の状況を把握する為に何度か訪問してもらい困っている事、不安な事の要望に耳を傾けながら安心して生活出来るよう関係づくりに努力している。本人の情報(生活史・習慣・好きな物)や家族の情報を聞き取り信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時本人がわかる事・出来る事を見極め必要としている支援を探っている。その時その場面で必要とする支援は、半日程度の体験サービス利用から入所へとつなげている。	その時本人がわかる事・出来る事を見極め必要としている支援を探っている。その時その場面で必要とする支援は、半日程度の体験サービス利用から入所へとつなげている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅での生活の延長と思えるホームでありたいと日々思い支えている。それぞれ役割を持ち得意としている事を引き出す工夫をしている。漬けの物・ほうとう作り・巻きずし・野菜作り・縫物等を行事の際に発揮できる場面がある。	自宅での生活の延長と思えるホームでありたいと日々思い支えている。それぞれ役割を持ち得意としている事を引き出す工夫をしている。漬けの物・ほうとう作り・巻きずし・野菜作り・縫物等を行事の際に発揮できる場面がある。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際書ける人は本人から家族へお誘いの手紙を書いてもらっている。月1回ほどの自宅への外泊を楽しみにしている利用者もいて本人の喜怒哀楽を共感できる関係を築く為にその時の様子を家族から聞き参考にしている。書中見舞いや年賀状を書ける人は本人から家族へ書く。	行事の際書ける人は本人から家族へお誘いの手紙を書いてもらっている。月1回ほどの自宅への外泊を楽しみにしている利用者もいて本人の喜怒哀楽を共感できる関係を築く為にその時の様子を家族から聞き参考にしている。書中見舞いや年賀状を書ける人は本人から家族へ書く。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームめだかの学校	[セル内の改行は、(Alt+Enter) + (Enter) です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思いに寄り添い電話や手紙を利用して支えている。居室へは行事の写真や家族の写真を貼っている。また日々の食材の買い物は地域の馴染みの店に良く行き店員さんからの声かけが多く関係が途切れないように支援している。面会の帰りは生活リハビリで仕上げた雑巾を土産・お礼に手渡している。	本人の思いに寄り添い電話や手紙を利用して支えている。居室へは行事の写真や家族の写真を貼っている。また日々の食材の買い物は地域の馴染みの店に良く行き店員さんからの声かけが多く関係が途切れないように支援している。面会の帰りは生活リハビリで仕上げた雑巾を土産・お礼に手渡している。	電話や手紙で連絡を取ったり、行事や家族写真を居室に貼って家族との関係を継続している。墓参りや敬老会は家族と共に行き、面会の帰りに生活リハビリで仕上げた雑巾を土産やお礼として手渡している。食材の購入は馴染みの店に行き、移動スーパーでは月に1回当番の人がおやつを購入している。美容院は月1回来所するが、馴染みの店に行くもいる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自己紹介をし年齢に沿った話題で共有し趣味や行動を支えあえる支援をしている。一人ひとりが孤立せず得意としている事が十分発揮できる事を生活リハビリの中で支援している。(野菜作り・料理・洗濯物等)Ⅰ・Ⅱの利用者さんがいつも両方を行き来して仲間の関係が深まり互いに支えあっている。	利用者同士が自己紹介をし年齢に沿った話題で共有し趣味や行動を支えあえる支援をしている。一人ひとりが孤立せず得意としている事が十分発揮できる事を生活リハビリの中で支援している。(野菜作り・料理・洗濯物等)Ⅰ・Ⅱの利用者さんがいつも両方を行き来して仲間の関係が深まり互いに支えあっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係は変わらず施設へ移られた方の所へ面会に行っている。家族とも必要に応じて相談を受け支援したりホームへも遊びに来てもらっている。又退所された施設で逝去されても通夜や葬儀にも参列し在りし日の本人の会話の内容を家族に伝え家族を支えた。退去8年経過しても家族が訪問されている。	サービス利用が終了しても関係は変わらず施設へ移られた方の所へ面会に行っている。家族とも必要に応じて相談を受け支援したりホームへも遊びに来てもらっている。又退所された施設で逝去されても通夜や葬儀にも参列し在りし日の本人の会話の内容を家族に伝え家族を支えた。退去8年経過しても家族が訪問されている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情を観察し変化や気付きを得るよう心がけている。土日の家族訪問はなるべくホーム内での会話でなく外に出て気分転換を勧めている。会話の理解が難しい人にはしぐさや表情から本人の訴えを察するよう指導し、自宅周辺へのドライブで自宅にも訪問している。	言葉や表情を観察し変化や気付きを得るよう心がけている。土日の家族訪問はなるべくホーム内での会話でなく外に出て気分転換を勧めている。会話の理解が難しい人にはしぐさや表情から本人の訴えを察するよう指導し、自宅周辺へのドライブで自宅にも訪問している。	毎朝、名前・住所・年齢を言ってもらい、自己表現する機会を設けている。日常的に、言葉や表情から本人の意向や体調の変化に気付けるよう心掛けている。家族の面会時は気分転換できるように、戸外に出ることを勧めている。管理者は利用者全員の自宅や周辺の様子を把握しており、利用者共通の話題があることで、関係性を深めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを使いその人を支援する為の道具として本人や家族・友人が訪問時間取り取るようにしている。訪問時の親せきや家族からこれまでの経過を聞き取り把握して支援へとつなげている。	センター方式のシートを使いその人を支援する為の道具として本人や家族・友人が訪問時間取り取るようにしている。訪問時の親せきや家族からこれまでの経過を聞き取り把握して支援へとつなげている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時間き得た生活歴から一人ひとりの過ごし方を知り、その人らしく生活してもらう為に「出来る事・出来ない事」「解かる事・解らない事」の生活リズムを把握する為の努力をしている。ケース記録に一日の詳しい様子を記入している。	入所時間き得た生活歴から一人ひとりの過ごし方を知り、その人らしく生活してもらう為に「出来る事・出来ない事」「解かる事・解らない事」の生活リズムを把握する為の努力をしている。ケース記録に一日の詳しい様子を記入している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な関係者とは訪問時その時の課題点を伝え共有している。職員とも一緒に話し合いアイデアをケア会議・カンファレンスに反映している。意見交換し作成した介護計画の期間は6か月で評価の期間は3か月としている。記録は訪問時に確認してもらい家族は赤のボールペンで言葉を添えてサインをいただいている。	家族とは訪問時その時の課題点を伝え共有している。職員とも一緒に話し合いアイデアをケア会議・カンファレンスに反映している。意見交換し作成した介護計画の期間は6か月で評価の期間は3か月としている。記録は訪問時に本人の24時間の言葉を大切に記録し確認してもらい家族は赤のボールペンで言葉を添えてサインをいただいている。	入居前の本人の状況や課題等を聞き取り、本人・家族・職員で共有している。入居後の生活の様子を見てからケア会議等で意見交換し、介護計画を6か月の期間で作成、3か月で評価している。毎日の記録は本人の言葉を大切にするため、そのまま記録するようにしている。記録は家族にも読んでもらい、確認のサインをもらっている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子がわかるようにその時の場を本人の言葉を加え日中は黒、夜は青と色を変え工夫して記入している。職員と情報は、介護の申し送りノートで共有しケア会議で意見をまとめ計画・評価に役立てている。	一日の様子がわかるようにその時の場を本人の言葉を加え日中は黒、夜は青と色を変え工夫して記入している。職員と情報は、介護の申し送りノートで共有しケア会議で意見をまとめ計画・評価に役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域包括支援センターや地域の事業所と連絡が取れている。デイサービス利用者が雪の為帰宅に無理を感じたとき宿泊の用意をした。本人や家族の要求があれば(お盆やお正月・葬儀・食事等)時間にとらわれず柔軟なサービスや支援をしている。	地域包括支援センターや地域の事業所と連絡が取れている。デイサービス利用者が雪の為帰宅に無理を感じたとき宿泊の用意をした。本人や家族の要求があれば(お盆やお正月・葬儀・食事等)時間にとらわれず柔軟なサービスや支援をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で暮らし続ける支援として家族のみでなく地域住民やボランティアの力を借りているがホームの「ほっとスペース事業」でも相談を受けている。徘徊も地域住民や商業施設等の協力が必要でSOSネットワークに登録している。また地域の美容室へ引き続き行かれている人もいる。買い物も馴染みの店に良く行く。	地域で暮らし続ける支援として家族のみでなく地域住民やボランティアの力を借りているがホームの「ほっとスペース事業」でも相談を受けている。徘徊も地域住民や商業施設等の協力が必要でSOSネットワークに登録している。また地域の美容室へ引き続き行かれている人もいる。買い物も馴染みの店に良く行く。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校**

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は家族同伴が望ましくバイタル表等の特徴や様子の記録を手渡しているが無理な場合は職員が対応している。時には往診も対応してもらい夜間の緊急時も適切な対応と関係医療が受けられるような関係を築いている。	かかりつけ医への受診は家族同伴が望ましくバイタル表等の特徴や様子の記録を手渡しているが無理な場合は職員が対応している。時には往診も対応してもらい夜間の緊急時も適切な対応と関係医療が受けられるような関係を築いている。	看取りの方は往診を受けている。半数位の利用者は、入居前のかかりつけ医を家族と受診している。その際はバイタル表や申し送り帳を使い、本人の日頃の状況を家族や医師に伝えている。内科・整形外科・歯科等受診先の病院は協力医になっていて、夜間対応の体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートを活用し介護職は看護職へ排泄パターンから身体的変化を伝え健康管理や医療に関する相談をし対応している。日々の関わりからスムーズに受診の介助も支援している。	申し送りノートを活用し介護職は看護職へ排泄パターンから身体的変化を伝え健康管理や医療に関する相談をし対応している。日々の関わりからスムーズに受診の介助も支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には家族の了解を得て医療機関に介護・看護サマリーの情報を提供し、認知症状が進行しない為の工夫として職員の面会を多く支援している。骨折し車椅子使用となってもホームでの生活リハビリの支援で効果が上がっている症例を伝え早期退院出来るよう病院関係者と相談を密にした。	入院時には家族の了解を得て医療機関に介護・看護サマリーの情報を提供し、認知症状が進行しない為の工夫として職員の面会を多く支援している。骨折し車椅子使用となってもホームでの生活リハビリの支援で効果が上がっている症例を伝え早期退院出来るよう病院関係者と相談を密にした。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることとを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期についての話をしている。重度化しても対応が出来る事と看取りケアのマニュアルがあり経験している事を説明している。本人の気持ちも大切に安心して終末期が送れるように早い段階から話し合いを行ない地域の関係者やかかりつけ医とも相談したり職員と利用者が一緒に考えて出来る事を十分説明し方針を共有している。H28.4に106歳(女)の看取りを支援した。	重度化してもバリアフリー対応のみでⅡで生活できる事や安心して終末期が送れる様早い段階から家族と話し合いを行い事業所で出来る事を十分に説明した。いつでも家族が付き添い休める場所も提供した。	入居時に、看取り対応の指針について説明している。重度化した場合や看取り対応については、医師の意見に沿って対応している。家族の付き添い希望があれば宿泊もできる。看取りについて経験のある職員もいるので、職員間で話し合い共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置してあり、緊急時の通報訓練は毎月行っている。看護職から内部研修で応急手当や初期対応の指導を受けている。定期的な受け対応していることは意識喪失とバイタル異常から緊急性を確認してかかりつけ医に連絡後救急車を要請している。	マニュアルを設置してあり、緊急時の通報訓練は毎月行っている。看護職から内部研修で応急手当や初期対応の指導を受けている。定期的な受け対応していることは意識喪失とバイタル異常から緊急性を確認してかかりつけ医に連絡後救急車を要請している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した自衛消防訓練を職員が交代で通報・避難誘導を利用者と一緒に進めている。特に「玄関へ逃げて」の声で玄関に集まる習慣が出来てきた。下駄箱の中に防災グッズを入れている。運営推進会議等で地域の協力体制を築いている。	夜間を想定した自衛消防訓練を職員が交代で通報・避難誘導を利用者と一緒に進めている。特に「玄関へ逃げて」の声で玄関に集まる習慣が出来てきた。下駄箱の中に防災グッズを入れている。運営推進会議等で地域の協力体制を築いている。	年に4回避難訓練を実施し、夜間想定した自衛消防訓練は職員の誘導で利用者が玄関に集まるようになった。市の消防署の指導を受けながら訓練し、地域との協力体制もできている。玄関には防災頭巾や避難用ロープを用意してあり、非常時には利用者がロープを掴んで避難する訓練をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応しているが普段からさりげない馴染みの言葉かけ(甲州弁)は家族から理解されている。個人の希望を叶え居室で過ごす自由も理解し、プライドを保つ言葉かけをしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応しているが普段からさりげない馴染みの言葉かけ(甲州弁)は家族から理解されている。個人の希望を叶え居室で過ごす自由も理解し、プライドを保つ言葉かけをしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応しているが普段からさりげない馴染みの言葉かけ(甲州弁)は家族から理解されている。個人の希望を叶え居室で過ごす自由も理解し、プライドを保つ言葉かけをしている。	利用者や家族に呼び方や言葉使いについて聞いてから、その人が心地良いと思える言葉かけをしている。馴染みのある甲州弁を使うことは利用者、家族にも理解されている。排泄・入浴・入室等は、プライバシーやプライドに十分配慮してケアしている。個人情報保護についても職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人が今何をしたいのか傍らに寄り添い得意としている台所仕事や雑巾での床拭き・洗濯物の干しとたたみと買い物や家族に会いに行ったり日記や絵を書くと言う自己決定をできるように働きかけている。	常に本人が今何をしたいのか傍らに寄り添い得意としている台所仕事や雑巾での床拭き・洗濯物の干しとたたみと買い物や家族に会いに行ったり日記や絵を書くと言う自己決定をできるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は朝礼時に皆で相談するがその時その場の雰囲気や変更し本人のペースに合わせ買い物や散歩に寄り添い希望にそって支援している。新聞購読の時間帯にも今日は何をしておきたいか希望を聞き参考にしている。特に庭での手作りランチは、喜び楽しみにして時折家族も一緒に食べる時もある。	一日の過ごし方は朝礼時に皆で相談するがその時その場の雰囲気や変更し本人のペースに合わせ買い物や散歩に寄り添い希望にそって支援している。新聞購読の時間帯にも今日は何をしておきたいか希望を聞き参考にしている。特に庭での手作りランチは、喜び楽しみにして時折家族も一緒に食べる時もある。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	生活歴から本人が好む気持ちに沿った身だしなみやおしやれに心掛けている。特に外出時には化粧の支援をしてその人らしさを引き出している。行きつけの美容院に家族が同行してくれている。	生活歴から本人が好む気持ちに沿った身だしなみやおしやれに心掛けている。特に外出時には化粧の支援をしてその人らしさを引き出している。行きつけの美容院に家族が同行してくれている。		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームめだかの学校	[セル内の改行は、(Alt+Enter) + (Enter) です。]		
自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	
					次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活リハビリが中心で好みや力を活かし、職員も一緒に準備や食事・片付けをしている。新聞購読後食材を目の前に置き献立を決め季節の行事は、旬の食材を使い楽しみに使用している。(巻きずし・煮豆・ほうとう・すいとん等)またテラスでの食事は、いつもⅠとⅡが合流でお弁当を作り景色や風・花を観賞しながら楽しんでいる。	生活リハビリが中心で好みや力を活かし、職員も一緒に準備や食事・片付けをしている。新聞購読後食材を目の前に置き献立を決め季節の行事は、旬の食材を使い楽しみに使用している。(巻きずし・煮豆・ほうとう・すいとん等)またテラスでの食事は、いつもⅠとⅡが合流でお弁当を作り景色や風・花を観賞しながら楽しんでいる。	献立は法人の栄養士が作成するが、毎日利用者と相談して、出来るだけ希望に沿った食事を提供している。食材の購入・調理・準備・片付け等は、利用者と職員と一緒にを行い、生活リハビリの一環として、利用者の持っている力を発揮できる場を作っている。年中行事や季節感のある食事、おやつを手作りしているため、利用者は楽しみにしている。陽気の良い時はテラスに出て、風景を見ながらお弁当を食べ楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取・水分摂取は毎日ケースに記録し一人ひとりの状態や力を把握している。栄養バランスを考えた献立は食物繊維を多く取り入れて和食中心の献立で低栄養状態にならないよう心かけている。	食事摂取・水分摂取は毎日ケースに記録し一人ひとりの状態や力を把握している。栄養バランスを考えた献立は食物繊維を多く取り入れて和食中心の献立で低栄養状態にならないよう心かけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師がいることで口腔ケアは任せていたり指導を受けている。特に義歯の洗浄は洗浄剤を夜間時使用している。義歯使用者には寄り添い自身で外したり洗う支援を心がけて職員が洗浄している。	歯科医師がいることで口腔ケアは任せていたり指導を受けている。特に義歯の洗浄は洗浄剤を夜間時使用している。義歯使用者には寄り添い自身で外したり洗う支援を心がけて職員が洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣をいかにするために時間でトイレに誘導していただき送りノートに各自のオムツ等の使用枚数に時間を記入している。見守りながら自立に向けた支援もして排泄の誘導はさりげなく誘うように心掛けている。	一人ひとりの排泄パターンや習慣をいかにするために時間でトイレに誘導していただき送りノートに各自のオムツ等の使用枚数に時間を記入している。見守りながら自立に向けた支援もして布パンツ使用2名の排泄の誘導はさりげなく誘うように心掛けている。	オムツ使用を減らすことを目標にして、送りノートに一人ひとりの排泄リズムを記録し、各自の状況を把握しながらトイレに誘導しているが、その際はさりげない声掛けを心掛けている。入院後に、オムツからリハビリパンツになった人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れ調理したり散歩や体操をして身体を動かす働き掛けをしている。便秘の問題を抱えている人は生活リズムシートを使用し、かかりつけ医の協力を得ている。	食物繊維の多い食材を取り入れ調理したり散歩や体操をして身体を動かす働き掛けをしている。便秘の問題を抱えている人は生活リズムシートを使用し、かかりつけ医の協力を得ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員が都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別に合った入浴を理想とし日中の午前・午後とし週2~3回の入浴としている。常に清潔保持に努めているが入浴を拒否する人が多くなり拒む人への言葉かけには個々に添った支援をして時間や日を変更している。仲間同士での入浴を楽しんでいる。	個別に合った入浴を理想とし日中の午前・午後とし週2~3回の入浴としている。常に清潔保持に努めているが入浴を拒否する人が多くなり拒む人への言葉かけには個々に添った支援をして時間や日を変更している。仲間同士での入浴を楽しんでいる。	日曜日以外は入浴ができ、一人の方が週2~3回入浴している。浴室に下着を入れたタンスを備えてあり、入浴後の着衣がスムーズに行えるように工夫している。日によって気分が乗らない方もいるので、入浴剤を使用したり、言葉かけを工夫して納得して入浴出来るようにケアしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に合った習慣を知り、その時の状況に応じて休息している。日中はなるべくリハビリ体操等で身体を動かしたり日光浴や周辺を散歩している。高齢者が多いため食後は休息時間を取っている。	個別に合った習慣を知り、その時の状況に応じて休息している。日中はなるべくリハビリ体操等で身体を動かしたり日光浴や周辺を散歩している。高齢者が多いため食後は休息時間を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医・看護職員から服薬について指導を受け、また内部研修で理解に努めている。症状の変化はいつも詳細な記入をケース記録に記している。	かかりつけ医・看護職員から服薬について指導を受け、また内部研修で理解に努めている。症状の変化はいつも詳細な記入をケース記録に記している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除時・床拭き・モップ掛け・洗濯物干しとたみ等の支援は張り合いで畑での野菜作りは喜びと喜ぶ。嗜好品は干し柿・干芋・切り干し大根で楽しみ事は雑巾縫いと巻紙アートをおしゃべりしながら作業している。作品展へ展示した巻紙アート作品と雑巾アートは最高の楽しみ事もあり朝礼時の役割の発揮は圧巻である。	掃除時・床拭き・モップ掛け・洗濯物干しとたみ等の支援は張り合いで畑での野菜作りは喜びと喜ぶ。嗜好品は干し柿・干芋・切り干し大根で楽しみ事は雑巾縫いと巻紙アートをおしゃべりしながら作業している。作品展へ展示した巻紙アート作品と雑巾アートは最高の楽しみ事もあり朝礼時の役割の発揮は圧巻である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	ほぼ毎日のように近所の神社へ数人が散歩に出掛ける。ドライブやさくらんぼ狩りや桃の花見・1日行楽での食事や近所の人との会話は楽しみにしている。外出時の食事はカッパ寿司で食べる事が恒例となっている。月1回移動スーパーに来てもらい利用者がかごを持ち約500円位までの好きな物を選び購入している。	ほぼ毎日のように近所の神社へ数人が散歩に出掛ける。ドライブやさくらんぼ狩りや桃の花見・1日行楽での食事や近所の人との会話は楽しみにしている。外出時の食事はカッパ寿司で食べる事が恒例となっている。月1回移動スーパーに来てもらい利用者がかごを持ち約500円位までの好きな物を選び購入している。	日常的に近所の神社への散歩、食材の購入等をしている。ドライブや花見等で外出する時は回転寿司で食事をするのが恒例となっている。ユニット間の行き来やテラスでの食事を楽しむことも多く、近所の住民との会話を楽しむ機会がある。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームめだかの学校	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]		
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材の買い物に誘ったり、移動バン屋さんや地域の移動スーパーでの購入時に財布を渡し好きな買い物をしている。その際、力のある人には計算もしてもらって釣銭を確認が出来るか傍らに寄り添い支援している。	食材の買い物に誘ったり、移動バン屋さんや地域の移動スーパーでの購入時に財布を渡し好きな買い物をしている。その際、力のある人には計算もしてもらって釣銭を確認が出来るか傍らに寄り添い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が電話したり希望があれば手伝ったりもする。めだか便り、年賀状、暑中見舞いに書きこんでもらい今の様子を伝える支援はしている。家族からの手紙やはがきは本人に手渡している。	本人が電話したり希望があれば手伝ったりもする。めだか便り、年賀状、暑中見舞いに書きこんでもらい今の様子を伝える支援はしている。家族からの手紙やはがきは本人に手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造した室内は自宅での生活そのまま居間は畳を使用している。不快感や混乱が無いような自宅そのままである様に工夫している。居室には温度計を置き寒暖差に注意し、光を多く取り入れている。トイレにはプライバシーを尊重し間仕切りにカーテンを使用。玄関や廊下等には季節が感じられる工夫として花やハビリの作品・行事の写真を貼っている。	バリアフリー対応の為車椅子使用でも(玄関、廊下、居間、食堂、浴室、トイレ等)不快や混乱が無いように工夫し居室には温度計を置き寒暖に注意しホールは外の景色が見られるよう配置され光を多く取り入れている。玄関や廊下には季節が感じられる工夫としてハビリの作品や行事の写真が貼ってある。日中はⅠ・Ⅱの建物を場面に応じて行き来している。	ユニットⅠは住宅を改築したので、部屋ごとに特徴があり木造建築の暖かみを感じられ、採光も十分あり住みやすい空間となっている。ユニットⅡもⅠと同じような色彩の壁面や家具が配置されており、別棟であるが統一感がある。壁面には巻紙アートの作品や習字、絵手紙等の他、たくさんの写真が貼られている。写真を見ることで忘れてしまった経験を思い出すきっかけとなったり、来所した家族にも様子が分かりやすい工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごす居間にはソファ・座卓 廊下で日向ぼっこが出来るように椅子も置いてある。テラスにはテーブルと椅子が置いてあり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせている。台所で過ごす人もいればそれぞれが自由である。	思い思いに過ごす居間にはソファ・座卓 廊下で日向ぼっこが出来るように椅子も置いてある。テラスにはテーブルと椅子が置いてあり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせている。台所で過ごす人もいればそれぞれが自由である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し馴染みの家具や使い慣れたものを置いてある。特に自宅で使い慣れた布団はそのまま使用して居心地良く過ごせている。板の間仕切りを開けると夫婦が入居できる一部屋となる。家族同士の関係が築かれ仲良く2人が同室で寝ている。部屋には本人が好む写真を貼っている。	家族と相談し馴染みの家具や使い慣れたものを置いてある。特に自宅で使い慣れた布団はそのまま使用して居心地良く過ごせている。板の間仕切りを開けると夫婦が入居できる一部屋となる。家族同士の関係が築かれ仲良く2人が同室で寝ている。部屋には本人が好む写真を貼っている。	ベッドとエアコン以外は利用者の馴染みのある家具や使い慣れたものを使用している。写真や制作した作品等を飾り、利用者の個性に合わせて居心地よい部屋になっている。ユニットⅡには、仕切りを取ると夫婦の入居が可能な道りになっている部屋がある。個室ではあるが、スペースが広いので同室で就寝している仲が良い利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを中心に支援し「出来る事」「解かる事」を活かし掃除や洗濯物の干しやたむ事が安全に出来る高さに工夫している。特に台所仕事は、ほぼ全員の人が食器洗い・拭き・片付け等安全に出来る高さに工夫している。また使用できる包丁やヒールを用意して安全に対して支援を心がけている。	生活リハビリを中心に支援し「出来る事」「解かる事」を活かし掃除や洗濯物の干しやたむ事が安全に出来る高さに工夫している。特に台所仕事は、ほぼ全員の人が食器洗い・拭き・片付け等安全に出来る高さに工夫している。また使用できる包丁やヒールを用意して安全に対して支援を心がけている。		